

岡山県

せいきょう連 ニュース

岡山県生活協同組合連合会 TEL:086-221-4301

近年、日本とアジアの生協の共同連帯の動きが盛んになってきていますが、岡山県生協連は、韓国・中国・東南アジア諸国の生協との交流を通して、相互の絆を強め運動の発展につなげることができればと、この度、ベトナムの生協・サイゴンコープを訪問しました。(関連6・7ページ)

街は活気に溢れ、コープのお店は来店客で大賑わい



↑ ドイモイ政策により、国営協同組合が生協へ、ちばコープから学校が寄贈されたなどと語られるサイゴンコープ ニヤ理事長



↑ 概要説明を聴く一行



↑ ディスプレイとボリューム陳列に活気あふれる店内



↑ 持参した折鶴を副院長のツンさんに手渡す吉永団長

サイゴンコープの概要

沿革：生活物資の配給中心の国営協同組合が、ドイモイ政策により解散、89年にサイゴン商業協同組合連合会設立、90年サイゴンコープ発足、96年直営「ユプマート」オープン、98年規約制定、役員体制。
・スウェーデンなど海外への研修活動を積極的に進め、日本の生協との研修と交流も進められている。
事業内容：小売り、卸し(5.7%)、直輸入、輸出(1.5%)、製造加工(1%)、海外企業との合併事業。
店舗数：コープマート13店 他7店
総売上高：8,000万ドル(前年伸長率140%)
ベトナム最大のスーパーマーケット
顧客登録(組合員)：206,000人
職員総数：2,865人(平均年齢33歳、女性が57%)
その他：ISO9001
ベトナム政府より「労働の英雄」賞 授賞

ツーザー病院(平和村)の概要

ベトナム最大の病院で婦人科専門病院。建物はドイツの支援団体が、設備・備品などの多くは日本の支援団体によって寄贈されている。
ベット数：1000床
外来患者数：1,300人(1日)
1年間で45,000(1日150人)人が生まれる
職員数：1,700人 **医師**：200人
・枯葉剤の影響と見られる障害・死産児は今なお1%で、三代にわたって続いている。
・平和村の施設では、0歳児～24歳までの身体障害者60人が生活している。37人の職員が勤務。
・貧困家庭でお産費用も払えない人が多く、病院が費用も障害をもって生まれた子も面倒をみている。
この病院でできない治療は他の病院へ転院し、費用はツーザー病院が負担(YMさんのレポートより)。

2005・・・8月以降のおもな取り組み・行事

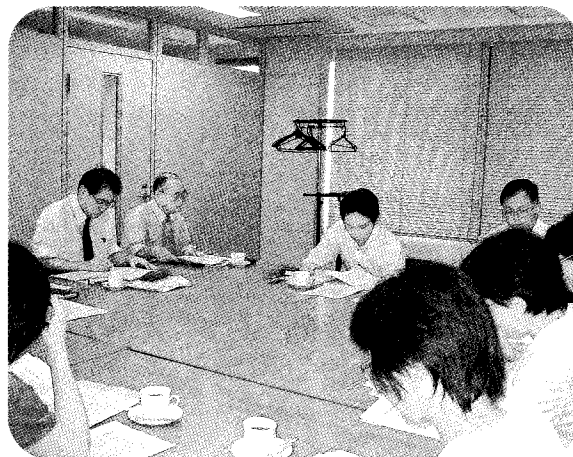
◆「団体訴権」おかやま連絡会の勉強会が行われました【8月20日(土)】

「団体訴権」問題をめぐる最近の状況と既存の訴権団体(準備組織)の現状と課題を学ぶことを通して、岡山では何ができるかを視点に意見交換を行いました。

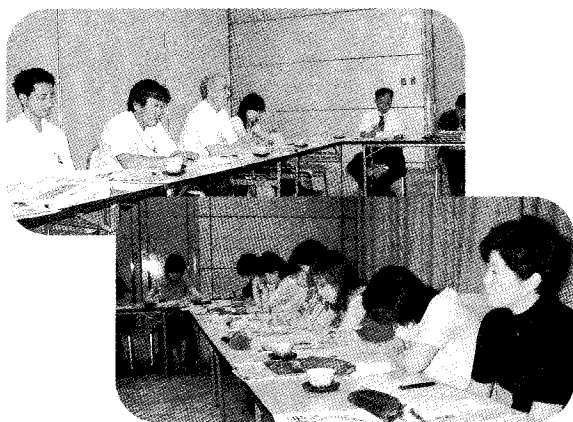
「NPO 消費者ネット広島」理事の長井 貴義(弁護士)さんを講師に迎え、「消費者団体訴訟制度の在り方について」に対する評価と当ネットの現状についてお話をいただきました。

「会」は、当面、以下に取り組むことを申し合わせました。

- ①「連絡会」参加の呼びかけを団体・個人に行う。
- ②総選挙後の新議員に要請活動を行う。
- ③パブリックコメント募集に対して「意見」を提出する。
- ④NPO 消費者ネット広島との交流機会を設ける。
- ⑤財政(運営)計画を検討する。



◆食の安全に関する県行政との懇談会が行われました【8月22日(月)】



県からは、「食の安全推進プログラム」の夢づくり政策評価シートにそって、重点施策の取り組み状況、自主検査実施認定事業、リスクコミュニケーションの推進にパンフの作成、県ホームページに「食べ物安全探検ねっと」の掲載、特に「おかやまの食べものの安全・安心を知ろう」パンフは6万冊作成し、県内の小学4年生全員を対象に配布していること、「食の安全サポーター拡大事業」を新たに実施することなどが報告されました。

また、BSE関連について、全頭検査を継続すること、検査体制等の現状について報告がありました。

◆第21回中四国生協・行政合同会議が鳥取で開催されました【8月31日(水)】

今回のテーマは「行政と生協の協力で、安心・安全な生活の実現を」で、厚生労働省中国四国厚生局をはじめ、日本生協連、同中四国地連、各県行政担当及び各県生協連役員など67名が出席しました。

はじめに、中四国地連議長の三橋幸夫氏より開会の挨拶があり、続いて、開催地鳥取県の藤井喜臣副知事より歓迎のご挨拶がありました。

議長に鳥取県生協連の那須昭美会長を選出、厚生局の島村力夫福祉課長より来賓挨拶をいただいた後、日本生協連などの報告があり、各県行政担当者からは生協への要望と期待が述べられました。

また、特別報告として①鳥取県防災局防災危機管理課の城平 守朗課長より「鳥取県西部地震を踏まえた主な防災対策」について ②日本生協連 震災担当の亀山薫氏より「自然災害と生協の役割～大規模災害に生協はいかに役に立てるか」について報告がありました。

テーマに関連して高知、広島の県生協連、島根県、鳥取県からも報告がありました。

最後に、次回開催県の高知県生協連より挨拶がありました。



岡山県に「要望書」を提出しました

《要望は7つの分野、22項目です。以下に項目要旨を掲載しています。》 提出日 平成17年10月19日

1. 生協の育成・強化

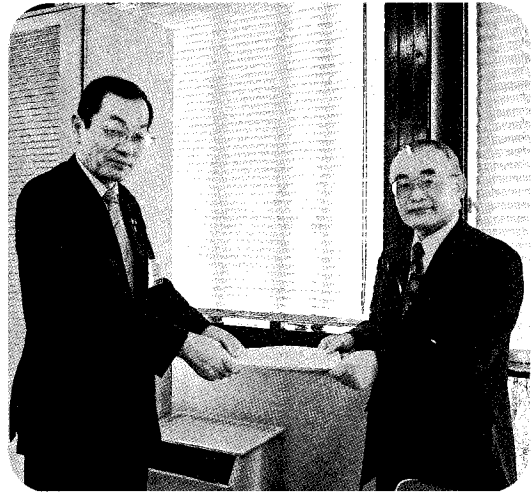
- ①消費生活協同組合運営指導委託料の引き上げ。
- ②県消費生活協賛資金貸付制度の金利引き下げと運用条件の改善。

2. 消費者行政について

- ①消費生活基本計画の充実と計画の実効性を高めること。
- ②消費者啓発活動、消費者教育に県のリーダーシップを発揮し、NPO・消費者団体と連携した取り組みの具体化。

3. 食の安全について

- ①実効性と相互理解を高めるためにも、コミュニケーションを大切に。
- ②健康食品等の監視、適正表示に関する指導の強化を。
- ③農産物のトレーサビリティシステムについての消費者などへの情報伝達とシステム活用のための支援施策(広報など)を。
- ④BSE 検査の全頭実施の継続を要望します。
- ⑤HACCP システムについて、企業への導入援助と点検強化を。
- ⑥「食育推進計画」を地域、学校、保護者などの参加と連携で。↑「要望書」を手渡す吉永県連会長(左)と岡野県民生活課長
- ⑦「食の安全対策協議会」の定例開催、緊急時対応、県民への情報提供、資料・議事録公開など会の機能強化を。
- ⑧食品衛生監視指導計画の策定にあたって、広く県民の意見を聴取し、県民の食品安全意識の向上に努められたい。
- ⑨食品安全行政は県政の最も基本的な行政課題の一つであることを位置づけ、その法的な枠組みとして「食の安全に関する基本条例」を策定することを要望。



4. 災害対策について

- ①災害協定締結団体との定期協議を行う中で、緊急物資の見直し、緊急車両の扱い、防災訓練(図上演習含む)への参加、生協にあっては員外利用の許可扱いなど実践的課題について、相互確認を得られること。
- ②災害時緊急物資協定以外に、例えばボランティア活動での情報提供や協議・懇談の場を設けていただくこと。

5. 環境対策について

- ①地球温暖化対策など啓発運動の強化、マイバック持参運動の「レジ袋有料化」では企業等への指導の強化を。

6. 保健・医療・福祉・介護・少子化対策について

- ①介護サービス情報は、ホームページが利用できない住民などに対して、ケースに応じた情報提供方法の検討を。
- ②県の独自施策として、介護保険料・利用料の減免及び無料化を含む援助制度を設けてください。
- ③特養老人ホームの増設など市町村の財政に応じた援助をすすめてください。
- ④乳幼児の医療費無料制度について、対象年齢を入院同様外来も就学前に改善を、県として国への働きかけを。
- ⑤障害者医療は、1・2級に対して行われている医療費助成制度を3級該当者まで拡大を。

7. 産消提携、地産地消運動について

- ①食の安全・安心と食料自給率向上のためにも、生産者や産地の支援、消費者との交流の促進を。

◆児島湖流域清掃大作戦に参加しました【9月4日(日)】

岡山県が児島湖流域の各市町村、団体などに呼びかけて、今年は9月4日(日)午前7時30分から「晴れの国おかやま国体クリーンアップ大作戦」と連携しておこなわれました。

今年もおかやまコープの職員や三井造船生協の家庭会などから約80名の方々が参加し、空き缶、ビン、プラスチック類をはじめ、周辺河川の汚泥などの回収に汗をながしました。

◆消費生活基本計画の策定にあたり、県から概要について解説していただきました【9月14日(水)】

県生協連では、8月29日に開かれた県消費生活懇談会の部会で示された「消費生活基本計画(骨子案)」について、県から計画骨子案を解説いただく機会を設け、懇談を行いました。

計画案は、2010年までの5年を期間とし、5つの基本目標ごとに重点目標と施策の方向を挙げています。

計画の推進にあたっては、県庁の各課で施策の推進を図り、毎年度、施策の進捗状況を調査し、必要な計画の見直しを行うこととしています。

今後は、計画素案の決定後、12月中旬までにパブリックコメントを募集し、1月の消費生活懇談会を経て、2月県議会で審議・決定するというスケジュールになっています。

トピックス 会生協の取り組み

おかやまコープ

『ラブウォーク in おかやま』を開催

「おかやま国際貢献月間」初日の10月1日（土）に『ラブウォーク in おかやま』を開催しました。（財）ユニセフ協会岡山県支部には共催という形で、また、「おかやま国際貢献月間」企画として登録され、広報などの面で岡山県国際課のご協力をいただきました。

♥愛がいっぱいの『ユニセフ ラブウォーク』

秋日和の少し汗ばむほどの好天気のもと、『コープ・ユニセフ スマトラ沖地震・津波復興支援募金キャンペーン』の一環として『ユニセフ ラブウォーク in おかやま』を開催しました。健康づくりをしながら歩くことでユニセフ募金に参加するイベントです。

城下（しろした）地下広場をスタートし、後樂園周辺のコスモスや彼岸花の咲く道沿いを散策しながら、表町商店街までウォーキング。

この日は164人の参加者があり、元気いっぱいの子もたちの笑顔がたくさんみられました。そこには、厳しい環境にあっても希望を失わないで生き抜いて！という、スマトラ沖の子もたちへのみんなの「愛」がいっぱいあふれているようでした。

ラブウォークに寄せられた募金50,627円は吉永理事長から、日本ユニセフ協会岡山県支部へ贈呈しました。



『お店エコツアー』を開催

おかやまコープでは、夏休み中の子もたちが環境について学ぶ「お店エコツアー」を開催し、9店舗10会場で282人の親子が参加しました。

まず、おかやまコープのマイバッグ運動やリサイクル、お店での環境の取り組みについて学んだ後、店内の環境に配慮した商品の売場やお店の裏側、リサイクルコーナーなどを見学しました。

参加者からは、「普段見ることができないお店の裏側を見ることができ、衛生管理や品質管理、リサイクルがきちんとできていて安心できた」「リサイクルの分別の仕方がよくわかり、より一層エコライフに取り組んでいこうと思う」等の感想が寄せられました。



岡山医療生協

夏休みこども病院探検隊

岡山医療生協では、子どもたちと一緒に体のことや健康について学習をしています。骨折した骨のレントゲンを見ながら、骨について学んだり、無農薬の食材を使ってマヨネーズづくりをして添加物の怖さの学習などを行っています。

夏休みにおこなった病院探検隊では、日ごろ見たことのない臨床検査科や放射線科、そして、病院の中の見学をしました。初めて見る電子顕微鏡、CTスキャンに子どもたちのこころはウキウキワクワク。職員から健康に過ごすための話を聞きました。医療生協ならではの体験学習でした。



学校生協オリジナル企画

「魯迅を訪ねて」の報告

8/26～29に29名で上海・南京・紹興を訪れました。
南京では南京大虐殺記念館、中山陵を、紹興では魯迅ゆかりの地をめぐるしました。

(裏面の組合員のひろばに旭丘小・住寄善志先生の参加記があります!)

魯迅故居 魯迅記念館見学 8/28 (日)



2005ピースアクション in ヒロシマの報告

8/4～6に開催された2005年ピースアクション in ヒロシマに参加しました。

ピース映画、被爆の証言、フィールドワークに参加しました。

ピース映画の上映風景



「魯迅を訪ねて」の参加記

倉敷市立旭丘小学校 住寄 善志 先生

学生協の旅行企画「魯迅を訪ねて」に参加する機会を得た。

この旅行のチラシを見たとき、補助もありテーマもおもしろい、訪ねる地も普通の旅行では、あまり行かないコースであり、ぜひ参加したいと希望した。でも定員があり、どうなるかわからないと思い、7月初めの説明会に参加した。すると、岡本先生や大山先生から、「申し込みの皆さん全員ができるだけ参加できるように考えてい。」とのお計らいで、私たちは夫婦で参加させていただいた。

中国は、広く大きな国である。飛行機で上海に降りてからの毎日、高速道路を使って、400km以上の移動は大変でしたが、南京の南京大橋・南京大虐殺記念館・中山陵の見学、紹興での魯迅記念館・蘭亭の見学、上海での中国雑技団の公演見学など現地での貴重な見学ができた。案内をしていただいた中国旅行社の劉さん・翟(ジャイ)さんとの交流もよかった。劉さんの話される中国からの「留学生」や「研究生」の実態にも驚いたし、日本の大学や企業が考えないといけいない現状も知ることができた。

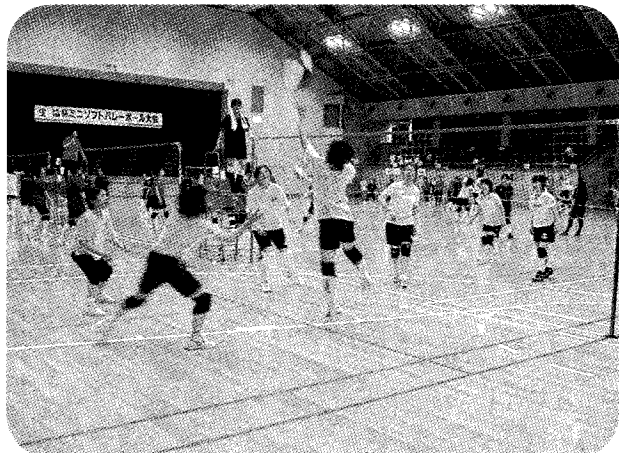
一緒に参加した皆さんとも一日一日仲良くなり、バスの中で話された「人生色々」のお話には感銘した。

戦後60年の今年、こうした企画が取り組まれたことは、大変意義あることだったと思う。今回は、平和の問題と魯迅・孫文についての学習もでき、有意義な4日間であった。

三井生協杯ソフトミニバレーボール大会

1992年から始まった大会も今年で12回目です。

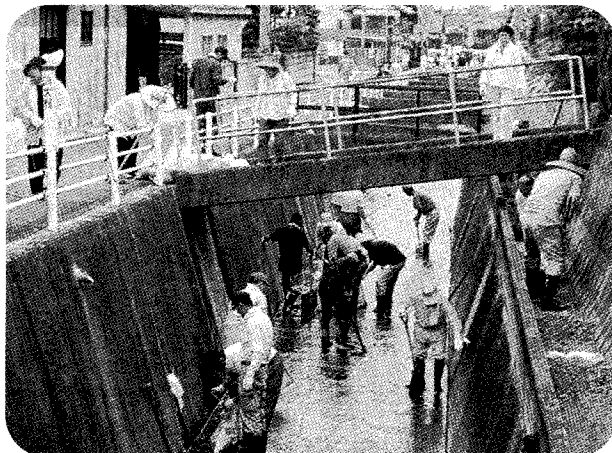
今回は9月3日(土)玉野レクリエーションセンター・アリーナで協会関係者を含め25チーム126名が参加、44歳以下と45歳以上の2グループに分かれて開催しました。



児島湖流域清掃大作戦に参加しました

9月4日(日)午前7時30分に八浜町元川の消防機庫前に地域住民・各団体より450名が参加しました。

毎年参加している三井生協家庭会からも運営委員長・環境委員10名が参加し、川床の汚泥の除去・沿道の雑草の刈り取りを行いました。玉野市生活環境課の発表ではゴミの総量は15トンとのことでした。



ベトナム・ホーチミン市訪問記

サイゴンコブとツーツー病院を訪問して・・・参加者のレポートから

岡山県生協連の一行14名は、去る9月16日(金)～19日(月)の日程で、ホーチミン市にあるサイゴンコブとツーツー病院を訪問しました。

ベトナム南部地方は雨季末期。蒸し暑かったものの滞在中二日間、雨はありませんでした。

—— 街はバイクと若者で溢れ、エネルギーで活気に満ちている(Uさん) ——

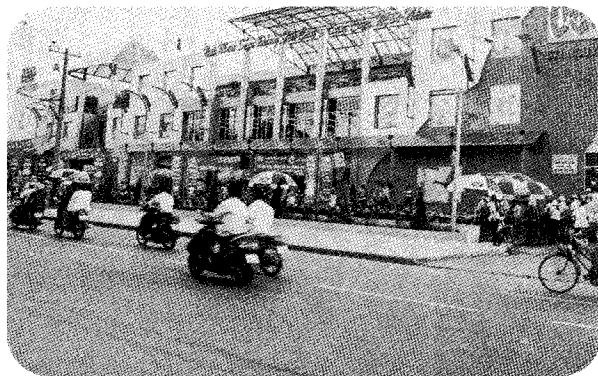
「うわぁ～なんなの！？このバイクの群れは！！」

～途切れることのないバイクの列。彼らはどこから来て、どこへ向かうのか。一人乗り、二人乗り、・・・四人乗り!!! 今ベトナムは夜8時過ぎ。明日も仕事だよ～。帰らなくてもいいの?(Tさん)

その流れは洪水のごとく～小さな魚の群れが障害物をスイスイと避けながら泳いでいるよう、～街を行く人たちに若者が多い、特に女性の存在が目につく街だ(Nさん)

信号もなく、かってに右折、左折してきます。車がなかなか進めません。ハッとすることもたびたび、バイクの人は笑っている、おおらかな風土なのでしょうか?(YMさん)

—— マーケットリーダーとして信頼されているサイゴンコブ(YMさん) ——



迎えてくださったサイゴンコブ女性職員の、りんとしたそれでいてしなやかな姿がとてる印象的だった。(YDさん)

1989年に設立、ベトナムの協同組合運動の発展に寄与、コブマート13店、他7店でホーチミン市でのシェアは50%を越えます。小売り、卸売り、直輸入、輸出、製造加工、海外企業との合併事業など多方面にわたり活躍、社会的活動として、10万ドルをチャリティ活動に使っています。戦争・災害の犠牲者、貧困家庭などへの支援を行っている。政府から「労働の英雄」の賞を受けた。コブマートの店内は、品数が豊富で、生鮮野菜や魚介類もばら売りで買いやすく、冷凍食品も多く、すぐ間に合うパック詰めの商品がよく売れているそうです。お客が多く、通路がごった返していました。店の雰囲気は明るく、少し派手なように見えましたが、活気がみなぎっていました。他に雑貨や洋服も揃っていて家族で買い物を楽しんでいた。(YMさん)

買い物客の多さにはびっくりさせられた。まるで日本のスーパーの新装開店日のような様相(Nさん)



“野菜の量り売り”にも客の列



—— ツーツー病院(平和村)では、24歳になったベトちゃんドクちゃんに会った(Tさん) ——

「平和村」に入ったとたん30年前にタイムスリップしたかのような空気、そこには、枯葉剤が原因だと思われる障害に苦しみ、治療を受けている子どもたちがいた。すてきな笑顔で私たちに日本語であいさつしてくれた女の子は床に座り足でペンを持ち一生懸命勉強していた。ある男の子はあどけない笑顔でダッコしてとせがんでいた。ある子は座っ壁をずっと見つめていた。(YD)

どの子も元気いっぱいだった。抱き上げた少年のおむつの湿り気は、一生忘れられない感触として私のからだに残った。(Tさん)

ベトちゃんは寝たきりであったが、ドクちゃんは病院の職員として私たちを迎えてくれた。胎児の資料室ではこれが人間の姿かと身体が硬直した。(Tさん)

女性として母親として・・・悲しいと言うのでなく枯葉剤を撒き散らした行為が同じ人間の行動であることが～怒りがこみあげてくる。(Kさん)

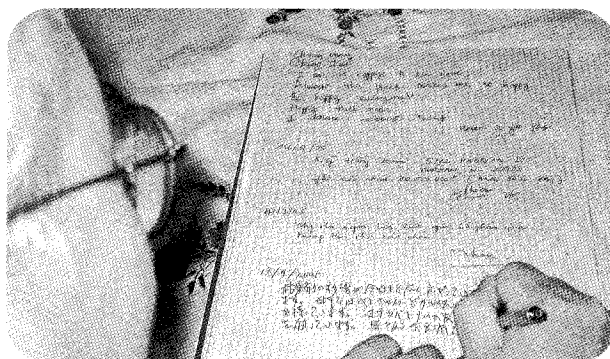
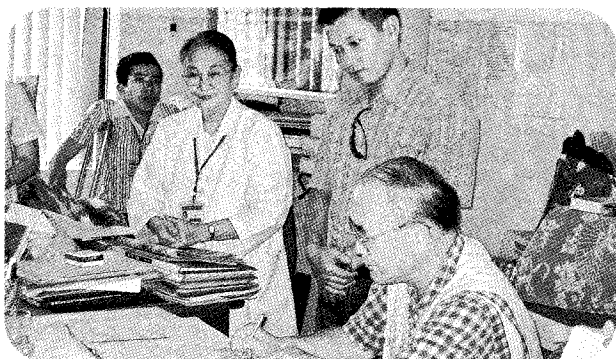
障害の子ども達に会った時、愛くるしい笑顔に救われたけれど、痛々しい体を見て、胸かしめつけられるつらさです。母親の苦しみを考えたら許せないことです。

一生病院で生きていくんだと思うと、この子の人生を奪った戦争に腹がたちました。(YMさん)

幼児に一口また一口と食事を運ぶ職員のけなげな姿に心を打たれました。(YBさん)



↑ドクちゃんも24歳の青年に 病院職員として活躍中



↑訪問団の”こころ”を集めて募金を託し、日本とベトナムの友好が長く続きますように・・・と記帳する吉永団長

なぜ、今、ベトナム・ホーチミン市を研修先に

1. ベトナム流通市場のなかでも、生協はサイゴンコープを中心にホーチミン市(ベトナム最大の経済都市)でめざましい躍進を遂げ、最大の小売チェーンとして注目されてきている。

01から日本生協連とその会員生協が協力して、アジア生協のマネージャー対象の研修を実施しており、サイゴンコープからも4名の研修生が参加した。

2. 今年は、ベトナム戦争終結30年、今なお枯葉剤被害による被災者とともに活動する医療施設(ツーツー産婦人科病院)の訪問を通して平和の大切さを学ぶ。
3. アジアの中で、中国とともに経済成長が著しく、市場経済導入のもとで90年代以降の“ドイモイ政策”による人々のくらしぶりを見聞する。

研修を終えて

実質2日間の日程ではありましたが、ホーチミン市(旧サイゴン市)に見る若々しく躍動感溢れる風景、また、サイゴンコープが地域の支持と信頼を得て発展の方向に向かっている様子、一方で、ベトナム戦争時の“枯葉剤”後遺症が三代にわたってつづいている現実などを見て、聞いて、大いに刺激を得、心に残る二日間の旅でした。

食事も、果物も、ビールも、安くておいしかったと微笑む顔に、戦争への怒りと平和の尊さを記す一行の想いが熱く伝わってきました。(K・Y)

県消団連が、原油価格高騰及び米国産牛肉輸入問題に関して関係方面に「要望書」

岡山県消費者団体連絡協議会は、去る9月26日に、要請書「原油価格高騰による事業者の経営、消費者の暮らしへの影響調査を早急に行い、県としての施策・執行に務められること」を岡山県並びに岡山県議会に提出しました。

また、10月14日には、要望書「米国産牛肉の輸入再開は、あくまでリスクアナリシスを前提とした判断を～消費者の信頼構築で生産振興を～」を内閣総理大臣、厚生労働大臣、農林水産大臣、内閣府食品安全委員会委員長に郵送しました。

以下にその要旨を掲載します。

要請書

原油価格高騰による事業者の経営、消費者の暮らしへの影響調査を早急に行い、県としての施策・執行に務められること

～時候ご挨拶～ 略

さて、日本経済は、踊り場から脱出しつつあると言われながら、サラリーマン世帯の所得と消費支出は減少しつづけており、多くの県民・消費者にとって景気が回復軌道に乗ったと実感できる状況ではありません。

このようななかで、昨今の原油価格の高騰は、ガソリンなど石油製品のほか、これを利用する運送業、クリーニング業、公衆浴場業、食品・日用品加工業などの経営に大きく影響し、コストアップ分の吸収ができないで倒産に直面している関係業者が出てきたり、諸物価の高騰にもつながり消費者の暮らしを直撃する様相ともなっています。

私たちは、この間、岡山県が事業者向け低利融資制度、及び原油高関連特別相談センターをいち早く設置したことに高く敬意を払うものです。

原油価格高騰の問題は、国際舞台での高騰要因をなくすことが根本ではありますが、原油のほとんどを海外の輸入に頼らざるを得ないわが国においては、石油元売会社の備蓄分の有効な放出活用や利益還元を図ることなどで、当座の末端価格への影響を抑制することが必要であると考えます。

そこで、以下の要請項目についてご検討の上、実効ある措置をお送りくださいますようよろしくお願い申し上げます。

記

1. 岡山県内で、原油価格高騰の影響が事業団体(企業)や消費者の暮らしにどのように現れているか早急に調査をし、公表してください。
2. 国に対して①備蓄原油の緊急放出 ②生活基礎物資の値上げとならないための抑制措置 ③便乗値上げの監視を強めることを要請してください。
3. 低金利融資制度が関係業者にとって活用しやすく、有効に機能するよう最大の努力をお願いします。

要望書

米国産牛肉の輸入再開は あくまでリスクアナリシスを前提とした判断を～消費者の信頼構築で生産振興を～

～時候ご挨拶～ 略

さて、報道によりますと、政府は米国産牛肉について、この12月までに輸入再開の方向を打ち出すとされています。すでに関係流通業界では、米国産牛肉の輸入再開を前提に、輸入量の見直し等を含め、専らビジネスチャンスの問題として施策検討が始まっています。

そもそも、米国、カナダ産の輸入牛肉問題は、BSE発生に伴う安全対策において、「日本と同等」の対処水準に至っておらず、「科学的知見」による施策が充分でないことによる「輸入停止」であることです。

日本国内における最初のBSEの発生は、生産者、消費者に大きな衝撃となり、とりわけ生産農家にとっては死活問題となりました。そのような中で消費者の信頼回復を通して生産振興を図っていくことの重要性が浮き彫りになり、いわゆる「消費者に軸足を置き」「BSEの全頭検査の義務付け」がされてきたというのが経過です。

このような中で、内閣府の食品安全委員会では、米国と日本における解体処理、検査体制等のレベルは「同等」との結論は出ず、むしろプリオン専門調査会での議論は、「日本向け輸出プログラムの条件が順守されれば」「汚染の可能性は非常に低い」との評価原案の提起に異論が出され、議論が継続しているというのが現状です。

政府が12月までに米国産牛肉の“輸入再開”の方向を表明するということが事実とすれば、この間の小泉総理大臣の「米国産牛肉の輸入再開は、科学的知見に基づいて判断する」との言明は何だったのでしょうか、国民・消費者への背信と受けとらざるを得ません。このことは、また、単に消費者の信頼を失うにとどまらず、回復しつつある日本国内の牛畜産振興に水を注すことにもなりかねません。

私たち消費者(団体)は、今、政府が進めようとしている米国産牛肉の輸入の方向について、現時点で結論を急ぐことに強く憂慮し、今こそ、食品の安全・安心の構築に向け、リスクアナリシス(リスク管理・リスク評価・リスクコミュニケーション)の徹底に最大の努力を払われることを強く要望するものです。

平成17年10月14日

<岡山県消費者団体連絡協議会のメンバー>

○代表幹事(順不同) 小林 侑子(JA県女性組織協) 枝木 俊彦(県労福協)、吉永 紀月(県生協連合会) 近藤 幸夫(青法協岡山支部)
○幹事団体(順不同) 青年法律家協会岡山支部・JA岡山県女性組織協議会・岡山県労働者福祉協議会・岡山県生活協同組合連合会・岡山県母親連絡会・新日本婦人の会岡山県本部・岡山県青年協同組合・おかやま酪農協同組合女性部・岡山医療生活協同組合・岡山県労働者共済生活協同組合・生活協同組合おかやまコープ・倉敷医療生活協同組合・三井造船生活協同組合 以上13団体